

せを一番に考えるのは、他でもない自分だと自負していましたから。

僕の父も仕事が終わるとまっすぐ帰ってくる人で、休日は家族みんなで過ごしていました。自分自身も、影響しているかもしれませんが。

地域活動について教えてください。

地元の小学校で、女子バレーボールチームとPTAチームの監督をしており、土日に指導をしています。もう20年程になりますが、この活動をきっかけに地域とのつながりができ、感謝しています。近所で犬の散歩などをしていると、学校の子どもたちや親御さん、校長先生など多くの方が声をかけてくれ、とても嬉しいですね。また、教員さんたちの成長も楽しみです。卒業式に参列し、子どもたちの晴れ姿を見た時などは「なんて立派になったんだらう」と涙がこみ上げてきます。卒業生とまちなかで遭遇した時には、すっかり大人になっていて驚きます。

今はバレーの監督のほか、学校評議員や、学校で

人のために何かをすると、

きっと、人生が豊かになる！

の授業もさせていただいています。実は、弁護士と同様に学校の先生にもなりたいたいと思っていました。地域での活動の中で、もう一つの夢も叶ったように感じています。今後も地域での活動を続けていきたいです。

ワーク・ライフ・バランスの実現のヒントを教えてください。

ワーク・ライフ・バランスについて考える時、いかに労働時間を短縮してプライベートの時間を確保するか、という議論が中心になりがちです。それはもちろん大切ですが、一方で、僕

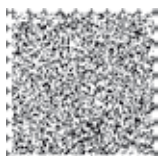
は、仕事以外の時間、「ライフ」をどう過ごすか、という視点が重要だと思っています。ワーク・ライフ・バランスは、プライベートの時間を確保することがゴールではありません。

「人生100年時代」の今、多くの人は、定年退職後に新たな生きがいを見つけ、セカンドライフをスタートします。その時、身近な地域社会に自分の居場所や活躍できる場面があるかどうか、実はとても重要なことだと感じます。よく、定年退職した人が地域活動にいきなり参加してみたものの、人間関係をうまく築けなかったり、周囲を困らせてしまったり、順

応できずにいるケースを見かけます。僕の場合は、特に男性に、それまでの自分の立場や会社での肩書きをリセットできず、地域にうまく溶け込めない人が多いように感じます。

コロナ禍でテレワークが推進される中、通勤時間が減り、仕事以外の時間が増えた人も多いと思います。その時間を自己研鑽や趣味といった「自分のため」だけでなく、ぜひ、家族や地域社会など「人のため」にも使ってみてください。地域の子どもにも勉強やスポーツを教えたり、ボランティアに参加したり、自分の経験を生かしてできることがあるはずですよ。誰かの役に立つことをしてみると、自分にも良いことが返ってきます。

彩り豊かになりま
すよ！



※このインタビューは、令和3年9月13日に行いました。